

千代田区といひまち

神田 順

(東京大学名誉教授)

東京都のど真ん中にある千代田区は、皇居をその中央に有するということから、まちとして極めて特殊である。だいたい緑被率が23%もなかなかの数字。これも半分は皇居のおかげである。11・6kmに人口670000人。一人当たり174㎡とゆつたりしている。私は、大田区在住であるが、大田区は59・5kmに72万人。一人当たり83㎡の倍以上である。もっともオフィスビルの占める土地も多いし、

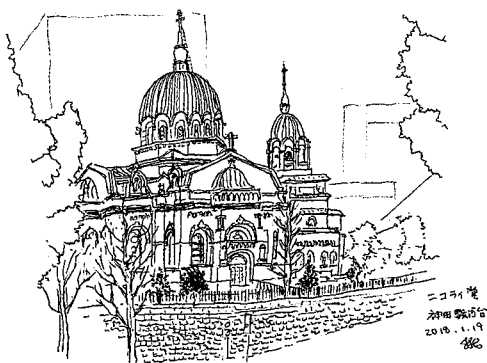
昼間人口で言えば特別ゆつたりとも言えないかもしれないが、もちろん、国会議事堂や首相官邸、最高裁判所も千代田区にある。

たまたま苗字が神田というだけでなく、けっこう馴染みの区である。小学校6年生のときは、神田駅前の進学教室に通った。ごちゃごちゃしたまちとの印象であった。高校は都立日比谷高校で、赤坂見附駅から通った。かつて1982年には最悪の火災を出したホテ

ルニュージャパンの、横の遅刻坂を毎日上った。地下鉄の駅側は港区の赤坂。部活の後に一ツ木通りを歩き回つたりもした。大人の夜の世界の賑わいは想像するだけであったが、同じ都心三区でも銀座を有する中央区、赤坂、六本木を有する港区と千代田区との違いでもある。たまに、こっそり昼を食べに、議員会館の食堂にも行つた記憶があるような気もする。

東大の建築学科の学生のころは、建築専門書を扱う南陽堂はよく覗いたが、建築関係の本を漁りに、仲間と神保町を歩いたことも少なくない。竹中工務店に勤めるようになったときの東京本店は、錦町の三菱銀行の上にあった。設計部は、隣のビルだが、連絡通路でつながっていた。つごう4年間ほど錦町に通った。そして、竹中を8年勤めた後、東京大学に戻つたのであるが、東京大学を

2012年に退職後は、日大理工学部の特任教授として駿河台に通った。本郷よりも、お茶の水は、はるかに便利だと痛感した。今も客員教授をさせてもらっているが、仕事場は主に、AForumという研究室のような事務室のような場所で、同じ駿河台のレモンパレットビルに週に半分くらいは顔を出している。レモン画翠の松永社長とは、千代田区のみち



づくりの話をよくさせてもらう。地下鉄の神保町駅から駿河台へ、今の通勤路となっている錦華坂を、けっこう息を切らせて登っている。日本全国を見まわしても、下町の多くが再開発で大規模建築に生まれ変わって、風情が無くなってしまったところが多いが、神田地区は、戦前からの街並みがかなり残っているように思われるし、まだまだ昭和初期の建物も散見される。そうは言っても、皇居周辺の景観論争など随分昔のこと、今こそ景観の議論をもっとしてほしい。

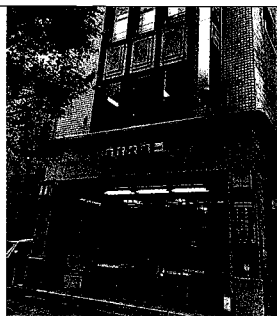
ニコライ堂は、関東震災で鐘楼が倒壊という被害を受けて、今の少し小ぶりの鐘楼の形に変わったというが、景観的にもお茶の水地区で中心的役割を果たしている建物だ。震災時の東京のみちの様子は、ニコライ堂から一望できたという。回りに超高層ビルが建ち並び、少し埋もれ気味なのが残念である。日大理工学部も2つの校舎で中庭を構成していたのをまとめて高層化し、並びの三井住友海上のビルと合わせて本郷通り側を後退して広場を設けた。ちらりとニコライ堂のドームが見えるようになったのは景観配慮があつたということだろうか。今のニコライ堂に隣接する2つのビルを皆で要望して、4、5階くらいに下げてもらおうと良いのだが、などと勝手に

創業 100 年をこえる老舗古書店

一誠堂書店

一般書・洋書・和本

千代田区神田神保町1-7 ☎ 03-3292-0071



古書買取・美術書
武道書・料理書

【営業時間】

(平日・土) 10時～19時

(日・祝) 11時～18時

千代田区神田神保町2-3

神田古書センター1階

創業明治八年

書肆 高山本店

TEL:03-3261-2661

想像している。

だいたい、再開発という手法が、怪しげで良くない。昔ほどあくどいことは少なくなっただけであらうが、小さな敷地を地上げして、容積率一杯に、あるいは、公開空地を設けるとか言って、さらに容積率のボーナスをもらって大きなビルを建てる。高層ビルの論理としては、小さな敷地には小さな家やビルがぎっしり建っているから、上へ伸ばすがわりに地表には空地が広くなると言うのだ。古い小さなビルを新しくするのだと言って、土地の値段も上がり、ビルの固定資産税も増える。こうして、低層の住宅地や商店街が巨大なビルに、もつと大きなまち全体の計画を展望することなく、部分的に生まれ変わる。結局は、中途半端な空間が高層ビルのまわりになるだけで、景観も何もあつたものではない。JR跡地の汐留の超高層群など、狭い広場しかなく最悪だ。そもそも景観を考えた都市計画になつていないことが問題なのである。

建築基準法は、敷地の中はご自由という法律になつているから、そして開発事業者にとって収益の最大化をねらうことは当然ということ、容積率一杯の計画をつくることになるので、元のまちの雰囲気のようなものは、どんどん無くなつてしまう。日本全国が、見

の下宿屋が千代田区周辺にも少なくなつた。今は、それがワンルームマンション、あるいは、もう少しお安いワンルームアパートで、これらも都市計画不在の中で、住宅地を侵食している。千代田区にはまだ少ないかも知れないが、それが超高層の大学を支えていることにもなつている。オックスフォードにケンブリッジ、ハーバードやスタンフォード、いづれもゆつたりした敷地に中低層の施設が点在し、歩いているだけでもアカデミックな雰囲気を感じられる。1980年代に描いていた大学の新キャンパスのイメージは、経済性や効率性に押しやられてしまったということのようだ。大学も会社も、都会がなんとなくの最先端のふりだけしているように見える。最近着目した昭和の建築の一つに、神保町の小さなオフィスビルがある。悲しいことに解体工事の張り紙が出ていた。さくら通りの一角にある小学館の神保町ビル別館。昭和5年に、相互無人会社として建築され、いくつかの銀行を経て最近までは、日本タイ協会が使っていたビルだという。スクラッチタイプは、当時好んで使われた外装。関東大地震の後10年も経っていない時ということもあつて、耐震的な配慮もけっこうなされたのだらうと、外から眺めただけではあるが、想像する。

た目は、どこでも同じようなまちになつてしまつている。そしてようやく多くの人が、これでもいいかと思ひ始めた。幸い、千代田区は、その被害が今のところまだ小さいようにも思うが、これから先、歴史や文化を、まちなみの中で大切にしていけるかの正念場だ。

駿河台地区は、大学まちでもある。日本大学、明治大学、法政大学、中央大学などに加え、駿河台予備校も存在感を誇示している。1980年代ころまでは、大学の拡張に対して、教育研究環境を考えた郊外化が当然のあり方として展開していたのに、いつの間にか1990年代も後半になると、経済活性化の波が大学にも押し寄せ、都心回帰が当たり前のようになつてしまつた。学生は、郊外でアルバイトもままならないとか、法律もいつのまにか都心回帰を後押ししている。そもそもスペースが足りないことが郊外移転のねらいだったことを思えば、当然のこと、超高層ビルの大学が次から次へと建設されたのである。確かにエアコンの効いた新しい教室で、授業を受けて、ほとんど一日同じ巨大な校舎の中で外に出ることなく、大都会のと真ん中に通う学生生活は楽しいものかも知れないが、それが大学の姿か気になるころ。学生の下宿も、昭和の時代ころまでは、木造2階建て



確かに、建築設備的にもあるいは空間的にも使いくさを持つているかもしれないが、何と言つても歴史を感じることが出来る魅力は圧倒的だ。隣の敷地と一体にして、新しいビルにすることで少しの間、収益を上げることになるかもしれないが、果たして、まちの

原書房 HARA SHOBO
浮世絵・版画

浮世絵・版画 浮世絵部 5212-7801
易・運命学書 易学書部 3261-7444

千代田区神田神保町 2-3
日・月・祝 定休

中国・アジアの本

内山書店

千代田区神田神保町 1-15
☎ 03-3294-0671
www.uchiyama-shoten.co.jp/

豚肉料理

T.dining

10名様から貸切OK!

ランチ 11:30~14:30(LO14:00)
ディナー 18:00~21:30(LO21:00)
定休日 土・日・祝・水(夜)

神田小川町 1-6-7 ☎5577-5529

印刷機材・事務機・出版の総合商社

新しい時代に対応する
創造、販売、サービス

株式会社

エコー

本社・営業部
東京都千代田区西神田 2-7-8 〒101-0065 ☎3263-6141 (代)
システムセンター
千代田区神田三崎町 2-1-7 〒101-0061 ☎3263-6146 ~8

魅力を増してくるようになるか心配である。コロナ禍が、生活の見直し、仕事場の見直しを問うている。人口減少社会を考えれば、今以上の床面積が東京に、千代田区に必要かと思う。新しいビルができると、古いビルのテナントが移ってきて、古いビルには空き室が増える。収益が落ちることで新築を開発業者が提案する。無理やり経済を回しながら、寿命の短いビルを建てては壊しを繰り返して

きたのが戦後のまちであり、建築の流れである。千代田区が、皇居を擁し、すでに多くの一流企業の本社の超高層ビルを建て、その隙間に歴史と文化をかるうじて保つ駿河台、神保町のまち。これからは、なんとかか上手に緑を取り込み、良質な建築を大切にすることで、新しいまちにゆつくりと変わってほしい。

ブルーキャリュ



珈琲舎
藏

シック in discover (306)

文・鈴木裕之 (蔵店主)

今回は、イギリスのパーレイ社より「ブルーキャリュ」をご紹介します。

パーレイ社は1951年、イギリス・ストーク・オン・トレントに設立された陶器メーカーです。また、イギリス国内においては創業当時から160年間続く伝統を守り続け、土から銅版転写ウェアの全て手作業で作っている唯一のメーカーです。

「キャリュ」は、パーレイ社の中でもコントラストの強い色彩が人気のシリーズです。今回ご紹介するブルーの他にもレッドやブラック、ブラウンなどの色違いもあります。絵柄のデザインは氷の上に落ちたブルナス（桜の一種）をイメージしています。

熟練の職人が転写紙に印刷された図案を手作業で陶器の表面に貼りつけていくため一つ一つ丁寧に作られており、インクのとび、形、かすれやムラが個性にもなっています。

色合いやデザイン、大きさなど、イギリスを感じさせてくれる気持ちの良いカップです。

神保町、一冊の本、そして珈琲。
ゆったりとした時間をお楽しみ下さい。



木の温み 格調高い茶器
英国調のインテリアで
本格コーヒーの御賞味を
お奨め特製チーズケーキ

珈琲舎
藏

神田神保町1-26矢崎ビル2F ☎3291-3323